

日本列島附近に發生せる深發地震の表

(1905 年より 1934 年 4 月まで)

和達 清夫・益田クニモ

1. この表は 1905 年より 1934 年 4 月までの期間に、日本列島附近に發現した深發地震（震源の深さ 200 軒以上）全部の發震時、震央位置、震源の深さ、地震度及び若干の記事を掲載する目的で作られた。

2. 1924 年以後は稍深發地震（震源の深さ 100 軒乃至 200 軒）の表が作られ、別表として附加されて居る。

3. 發震時は大約の値を分の桁迄示し、震央位置、震源の深さ等は、内外の地震觀測報告を基として調べ、之に既に發表された調査、研究等を参考とし、其の結果出来るだけ眞に近いと思はれる値を掲げた。

4. この表に掲げられた震央位置、震源の深さ等に對する精度は古きもの程低いものであるが、特に關東大震以前のは詳細に就ては尙考究の餘地ある場合多く、之に加へてこの表中に掲載洩れとなつて居る深發地震も相當にするかも知れない。其等に就いては後に訂正される機會があると思ふ。

5. 地震度の欄は地震の規模の大小を凡そ示す爲に設けられたもので、精確なものとは云ひ難いが、ある場合の参考には成ると思ふ。

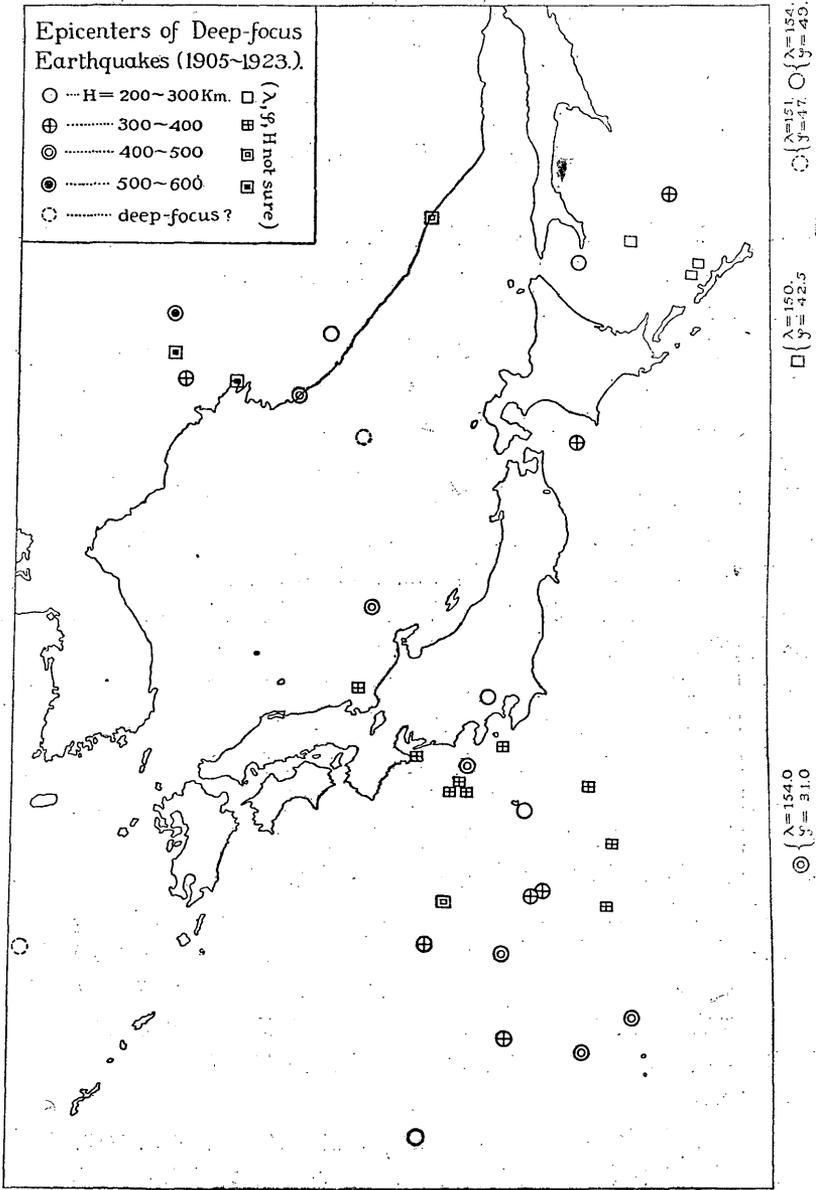
6. 表中には内外の地震觀測報告より若干の data を掲載し、尙記事欄には其の地震に對する他の著者の研究結果及び現著者の考察等を掲げて参考となした。

7. 表の結果を圖示したものが第 1 圖及び第 2 圖である。

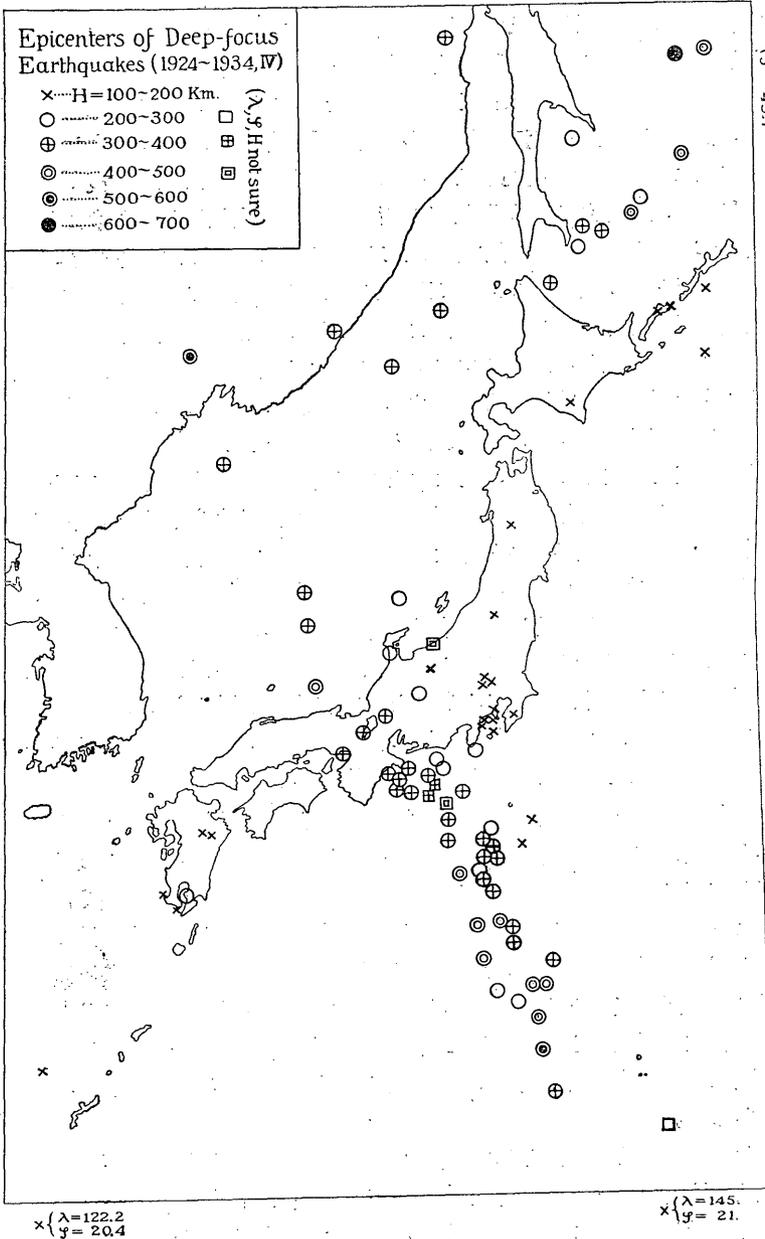
8. 附録としてこの結果に對する若干の統計、考察等が多少述べられて居る。

9. 用ひられた觀測材料は中央氣象臺年報（地震の部）、氣象要覽、内國各地測候所地震報告、外國各地地震觀測所報告、震災豫防調査會報告、驗震時報、International Seismological Summary 及び内外國人の論文等より得たのである。材料蒐集は尙充分でなく特に古き時代に於て甚しいが爲に、この表には訂正すべき所も相當にある事と思はれる。其等に就いてはお氣付の方の御教示を受けて追々完全なものに改めて行きたいと思ふ。

終りに本表作製のため、地震記象調査に對し種々便宜を計つて下さつた筑波觀測所の舊及び現所長高山、沖兩氏及び觀測記録を調べて下さつた仁川、大阪、名古屋、福岡、銚子、水戸、八丈島、水澤、秋田、函館の觀測所或は觀測所長諸氏、又古き内外の地震觀測報告調査の便宜を與へて下さつた東京帝國大學の地震學教室の方々に對し此處に厚く感謝の意を表する次第である。



第 1 圖 1905 年より 1923 年に到る深發地震分布圖



第 2 圖 1924 年より 1934 年 4 月に到る深発及び稍深発地震分布圖

附 録

○日本列島附近の深發地震分布圖 深發地震表にある地震の分布を圖示したものは第 1 圖及び第 2 圖である。第 1 圖は關東大震の年以前の十九年間のものであつて、觀測材料不充分の爲地震の數も少く、且震央位置及び震源の深さに就いても精度は充分でない。例へば襟裳岬の南方に深さ 360 杆の深發地震が 1 回發生して居るが、近年に於いてはこの地域に深發地震は 1 回も發生しない。或は之を深發地震になかつたか又は近年屢々經驗される日本海北部の深發地震の震央位置が誤り求められたものかも知れないが、併し當時の觀測材料を以てしては此の位置に求められる。又此の分布傾向を第 1 圖と第 2 圖とに於いて比較するに第 2 圖にては殆んど總ての深發地震は所謂深發地震帯と呼ばれる浦鹽方面より本州地狹帯を過り八丈島西方、小笠原列島に沿ふ地域に並び存在し、又一方之に直角に交はる他の一つの地震帯即ち浦鹽方面より、北日本海を過り、宗谷海峽より、オホツク海南部に及ぶ地帯に綺麗に並び存在して居る。然るに第 1 圖に於ては震央分布の大體の傾向は第 2 圖と同じ様に兩地帯に沿つて居るが甚だ散在して居る。之は主として精度の不充分に起因すると考へられるもので、深發地震分布圖を新舊兩期間に分ち圖示した理由も亦此處に存する。

第 2 圖は關東大震の翌年 1924 年より現在に到る約 10 年餘の期間の統計結果であるに拘らず深さ 100~200 杆の稍深發地震を除くも地震總數は遙かに多い。之は勿論該期間の深發地震を悉く網羅し得た結果に外ならない。前述の如く之等地震は總て甚だ整然と二つの地震帯を形成して居る。今假に此の兩地震帯を、横斷地震帯及び宗谷地震帯と呼ぶ、即ち本州を横斷するものと、宗谷海峽を過るものの意味である。尙九州南部（或は西部）より琉球列島にかけて尙他の深發地震帯の存在するらしき事が推定されるが、この調査では確言するに到つて居ない。

○稍深發地震の分布 稍深發地震は、深發地震とも亦通常の淺發地震とも其の發現場所をかなり異にする點が興味深い。第 2 圖に見られる如く稍深發地震は内陸地域に多く發現して居る。尙稍深發地震は時として火山に關係あるものの如く、火山地域に發現することも從來認められて居る所である。稍深發地震は海中遙か沖に發する時は淺い地震と誤られ看過されるか、又は震源の深さを過大視されて深發地震の中に混入される恐れが絶対に無いとは言へないが、しかし近頃の觀測結果では殆んどその心配はない。尙現在の調査では取扱はれて居ないが、通常の淺い地震に對して、深發地震及び稍深發地震の其等は全く異つて居る事が、第 1 圖及び第 2 圖を一見して認め得られるであらう。

○地震度 表中には地震度として地震規模の大小を A, B, C, D 及び E の 5 階級に分けた。元來地震規模の大小は精確に定める事が困難であり、特に震源の深さを異にする地震群に對しては、この際何を以つて簡單なる標準と採るべきかに迷ふ次第である。本表に於ては地震波の地球上に傳播する模様、換言すれば地震計觀測が震央距離の奈邊迄行はれたか其の廣狹を主なる標準とした。即ち A, B は共に世界中の鋭敏なる

地震計に感ずる程の大地震であるが、Aは特に大規模なるものである。Cは地震上の大部分に亙る程度即ち我國及び近隣國に於て觀測される程度のもので、Dは我國大部分の地震計に感ずる程度、Eは我國の一部にしか感ぜぬ程度の小規模地震である。この分類は勿論嚴密に行ひ得るものではないから、表に掲げた地震度は大體の標準として用ひられるに過ぎぬものである。

○別表——稍深發地震表 震源の深さ100 軒乃至200 軒程度の地震を今此處で稍深發地震の名を以つて呼ぶ事とする。稍深發地震は關東大震の翌年1924年より1934年4月迄の期間に於て調べられ、別表として與へられて居る。總數28、深發地震に比して其の數は寧ろ少ない。

一體に地震は殆んど總ての場合淺發地震であると云ひ得る程、震源の淺い地震が多いものであるが、規模大なる地震のみを取ると、深發地震は相當に存在する。即ち全體の約30%は深發地震と云ひ得る。然るに稍深發地震は却つて深發地震より其の數が少い。特に稍深發地震にては内陸地域に發するものは規模が餘り大きくないのを普通とする。

○二三の統計 本表及び別表の結果より二三の統計を取つて見る。

a) 震源の深さと地震回数 先づ震源の深さと地震度とに依る發現回數の分布を調べて見る。第1表は之である。

第 1 表

震源の深さ	回 數 (地 震 度 別)					合 計
	A	B	C	D	E	
600軒以上	—	—	1	—	—	1
500~599	3	3	1	—	—	7
400~499	5	3	9	3	1	21
300~399	10	9	18	12	—	49
200~299	3	5	10	6	1	25
不明のもの	—	1	—	3	—	4
總 計	21 (13)	21 (10)	39 (26)	24 (14)	2 (2)	107 (65)
稍深發地震	(6)	(3)	(7)	(7)	(4)	(27)

括弧内の數字は1924年以後のみの回數を示す。

することが出来ない。此の關係のみを見るには關東大震以後のみを取ればよい。併しA, B階級のものが各々21回あることは、我國附近に於いて深發地震の巨大なものが1年に平均1回或は2回位發現する事實を示めして居る。

尙第1表には稍深發地震の回數も併示してある。

比較の爲に淺發地震、即ちこの表に掲載されて居ない淺い地震の回數を掲げ之と對照して見やう。今淺發地震は規模の小さいもの迄數へる時は、甚だ數多きが爲到底比

較が出来ない故、先づ氣象要覽にて顯著地震とされたもののみを採り、大正十三年(1924年)より昭和九年(1934年)4月までの期間に就いて深發地震、稍深發地震及び淺發地震の回数比較を示めせば次の如くである。

深發地震	{	A, B に屬するもの	42 回
		C, D, E " "	65 回
稍深發地震	{	A, B に屬するもの	9 回
		C, D, E " "	18 回
淺發地震		顯著地震に屬するもの	152 回

b) 深發地震回数の地理的分布 深發地震の發現地域に對する統計を取れば次の如くなる。

横斷地震帶	{	父島附近(北緯 30 度以南) 15 回, 八丈島附近(北緯 34 度以南, 東經 138 度以東) 27 回, 遠州灘伊勢灣附近 11 回, 近畿中部地方 5 回, 日本海南部 8 回, 日本海北部, 浦鹽附近 9 回。
		宗谷地震帶 { 日本海北東部及び沿海州海岸 4 回, 宗谷海峽附近(東經 145 度以西)12 回, オホツク海 5 回
其の他		8 回

c) 月別深發地震回数 深發地震回数が 1 年に於いて多少の週期的傾向を示めすこ

第 2 表

月	地震回数	%	月	地震回数	%
I	7	6.5	VII	8	7.5
II	8	7.5	VIII	7	6.5
III	16	15.0	IX	10	9.3
IV	15	14.0	X	7	6.5
V	11	10.3	XI	3	2.8
VI	10	9.3	XII	5	4.7

とは既に調べられて居る所(例へば V. Conrad: Gerl. Beit. Geo. Bd. 40 S. 113)であるが、現在の結果から求める時は第 2 表の如くなり、大體に於いて春季(3, 4, 5 月)に多少頻發する傾向が見える。この傾向は V. Conrad の統計の場合にも同じである。(Conrad 氏の場合には日本の海附近の材料も含んで居るが、それを取り除いても尙この傾向はある。)

淺發地震のこの種の統計は大地震と餘震に對する關係があつて、詳論するには不適當と思はれる故此處に掲げて比較することを省略する。

我國附近の深發地震 (200 軒以上) 表 1905 年より 1934 年 4 月まで

番號	年月日	時分	震央位置 ⁽¹⁾	震源の深さ ⁽²⁾	震度 ⁽³⁾	内 國 報 告 ⁽⁴⁾	外 國 報 告 ⁽⁵⁾	記 事
1	1905 VIII 25	18 48	日本海北部?	深 發	B?	感面積 ⁽⁶⁾ 10310 方里. (III)大吠崎, 厚木, 厚岸(釧路), (II)大津(十勝), (I)秋田, 宮古, 東京, 筑波, 青森, 水戸, 函館, 石 巻, 其他.		⁽⁷⁾ * 筑波; S-P=99s.
番外	X 10	5 10	不 明			感面積 370 方里		* 筑波; S-P=88s.
2	1906 I 21	22 49	伊 勢 灣	320 軒	A?	房總遠洋の強震. 16700 方里. (V)甲斐. 相模, 武藏, 安房, 上總, 常陸, 美濃... (III)·(II)·(I)近 畿, (S-P)神戸 43s, 澎湖島 3m22s 宮古 75s, 臺中 2m57s, 臺北 2m50s.	(S-P) S ras. 9m53s ⁽⁸⁾ Man. 281s? 上海. 141s?	震央位置は, 震源の深さ320 軒と記象型より推定して求 めたるもの. 大森博士のも のと異なる. Gutenberg ⁽⁹⁾ は東京より 遠からず深さ 0.06 とす。
番 外	1907 II 6	17 38				房總の遠洋 10220 方里. (V)父島, 北條(III)半群(安房), (II) 横濱, (I)水戸, 神戸, 東京, 彦根, 福島, 宇都宮, 新潟, 石巻, 名古屋, 其他.		恐らく深發地震にては無か るべし。
3	III 26	20 22	日本海中部 38°N 136°E	450 軒	A	本洲東海岸の地震. 14800 方里. (V)安房, 根室, (IV)下總, 盤城, (III), (II)關東, 奥羽地方·(I)近 畿の一部.	Gött. S-eP=9m33s.	⁽¹⁰⁾ 筑波; S-P=51s.
4	V 4	17 37	父島東北遙沖 31°N 154°E	500 軒	B	小笠原島近海. 30° 20' N, 141° 30' E 7800 方里, (V)父島, (I)八丈島, 東京, 新潟, 横濱, 石巻. (S-P)宮 古 2m9s, 長野 1m43s, 臺南 3m37s.	Zag. P=49m35s Gött. iP?=49m33s iS?=59m47s.	筑波; S-P=122s.
5	V 25	23 04	浦鹽北方?	500軒以上?	A	2900 方里. (I)根室, 彦根, 七戸 (陸奥).	Gött. iP 12m 34s, i12m 34s, 14m 23s, 15m 29s, 17m 04s, iS 21m 15s, SR 24m 38s etc.	

番號	年月日	時分	震央位置	震源の深さ	地震度	内 國 報 告	外 國 報 告	記 事
6	1908 IV 19	17 01	日本海北方 43°N? 134°E?	560 呎以上?	A	八丈島南方沖 140°30'E. 31°30'N. (III)横濱。(II)秋田, 笹下, 北條, 八幡。(上總)浦川, 大津, 茂寄,(十 勝)釧路崎, 厚岸。(I)大阪, 彦根, 關東支部より奥羽東岸一帯。(S-P) 筑波 82s. 岐阜 13s, 甲府 50s.	Gött. P 8h9m38s, i 11 m33s, S 18m33s. Bud. S-P=8m50s.	筑波 85s. Gött. の i を sP とすれば H=320 呎, pP とすれば H=500 呎以上と なる。S-P より見て後者 を正となす。
7	VI 17	10 18	山梨縣下 35.7°N 139.3°E	260 呎?	C?	伊豆沖. 33°35'N. 139°30'E. (V)八丈島, 布良, 横濱, (I)南關 東及奥羽, 南部東岸, (S-P)横濱 3s, 甲府 30s, 東京 25s, 筑波山 33s, 長野 32s.		筑波; 31s 深發型.
8	1909 III 18	7 28	八丈島南西沖 30°N 137°E	350 呎?	C	(II)岡山, (I)彦根, 甲府, 横濱, 銚子, 東京, 水戸, 宇都宮。(S-P) 甲府 71s, 東京 5s, 八丈島 55s, 岐 阜 67s, 金澤 80s.		
9	X 3	23 2	八丈島南方 31°N 140°E	300 呎?	D	房總の遠洋. 34.8°N, 141.0°E. (II)横濱, (I)彦根, 横須賀, 東京. 筑波山, 水戸. 銚子, (S-P)銚子60s, 金澤 75s.		
10	1910 V 5	0 19	父島西方沖 27.8°N, 139.0°E?	350 呎?	D	(I)東京 (S-P)大阪 86s.		
11	VI 27	0 59	八丈島 西南西沖 32.0°N 142.5°E	360 呎?	D	八丈島沖. (II)横濱。(S-P)水戸 60s, 東京 49s, 筑波 60s, 岐阜 71s.		
12	1911 IX 6	9 55	日本海遼北方 37.0°N? 138.5°E?	400 呎?	B?	釧路の遠洋 震央近き釧路沿岸にては格別の現象 を呈せざしりも陸奥國下群田名部町 にては古き土藏の壁に龜裂を生じたり。 十勝測候所によれば地鳴と共に 震動を感じ, S-P 30s を經て主要動 にうつり震動時間 1m 20s にして靜 止せり云々。 (S-P)大阪 2m13s (0), 名古屋 2m27s.	Gött. iS-iP=9m5s.	筑波は不明。 十勝の S-P を無視すれば 震源の位置は左の如く決定 される。
13	1912 III 10	20 10	樺太大泊東方 46°N 145°E?	250 呎?	C?	根室南方沖 (S-P)大阪 2m23s, 水澤 1m24s.	Pul. S-iP=8m13s.	大阪, 水澤, Pul. の S-P によつては左の如く定めら る。

番號	年月日	時分	震央位置	震源の深さ	地震度	内 國 報 告	外 國 報 告	記 事
14	V 20	16 54	小笠原北西沖 28.0°N 142.4°E	400 軒	B?	小笠原北北西沖. 29.0°N, 142.0°E. 本土に於いて之を感じたるは福島, 新潟, 奄美大島にして父島は弱, 初 め緩漫なる震動に起り發震後 43s 時 を経て最大水平動. 上下動は 48s を 経て最大動となりたりと. (S-P)父 島 41s.	Pul. iP 8h5m35s e 12 24 iS 14 41	筑波; 95s, 深發型
15	VII 25	8 24	八丈島 南西遙沖 31.0°N 137.6°E	450 軒?	C?	八丈島南々西沖 31.5°N, 138.5°E (S-P)大阪 1m02.4s, 水戸 1m14s, 名古屋 1m08s, 水澤 1m40s.	Pul. S-iP=6m41s	Pul. の S-P が不足をな すが。
16	1913 I 20	8 51	千島北端附近 49°N 154°E	200 軒	A	樺提島東方沖 45°N, 165°E. (S-P)東京 1m29s.	(S-P) Zik. 4m40s, Irk. 5m8s, Bat. 8m34s, Pul. 9m25s.	石川氏 44.0°N, 150.0°E.
17	1913 XI 2	16 51	大島附近	400軒以内?	D	八丈島東方沖. 33.5°N, 141.0°E. (S-P)大阪 53s(O), 水戸 39s, 名古 屋 53s, 八丈島第一 53s, 第二 65s, (II. 性質急)銚子 38.4s.		筑波山; 42s?
番 外	1914 X 17	7 9			C?	磐城東方遙沖. 37.0°N, 146.0°E. (S-P)函館 1m06s, 水澤 1m23s, 水戸 1m49s, 大阪 3m03s.		筑波山にては S-P 2m に して主要動に移り緩漫なる 家屋の動揺を感ずとあり。 深さ不明。
18	1915 III 18	3 46	襟裳南方沖 41.5°N 142.5°E	360 軒	B?	三陸沖 40.7°N, 143.1°E. 震域非常に廣く北海道全道を震動し 無感覺微動は九州全部に互る, 被害 なし. (S-P)東京 1m15s, 水戸 1m07s 銚子 1m18s, 筑波 1m12s, 水澤 42s, 石巻 47s, 函館 26s.	Graz. S-iP=9m57s Zur. S-P=10m0.9s	
19	VI 28	0 29	樺提島南東沖 42.5°N 150.0°E	350 軒?	A	要覽には不明とあり, 其の他記事な し. (S-P)大阪 3m03s(O), 函館 1m20s(O), 水澤 1m28s, 水戸 1m37s (I), 秋田 1m34s(O), 銚子 1m45s(O)	Graz. eS-e=10m16s Irk. S-P=5m25s Pul. S-P=8m30s	筑波; 108s, 深發型? 浅きやも知れず。
20	X 9	0 37	八丈島附近 33.0°N 140.0°E	250 軒	B	八丈島南東沖 33.0°N, 140.0°E. 微震面積 10900 方里. 安房, 相模より 北宮城縣に互る間に弱震を觀測し たる所多し. (S-P)東京 38.6s, 水澤 1m14.0s, 銚子 39.9s, 大阪 45.0s, 神 戸 44.0s, 函館 1m51s, 福岡 1m07s, 仁川 2m08s.	Graz. S-eP=9m51s (S-P) Irk. 4m58s, Bat. 6m40s, Ekst. 7m 30s, Pul. 8m48s, Man. 4m54s, Zik. 2m36s.	左の値は内地の報告に依る ものにして外國の S-P に よれば H=400km. 位とな る。 筑波; 20s (I 緩).

番號	年月日時分	震央位置	震源の深さ	地震度	内 國 報 告	外 國 報 告	記 事
21	1916 I 25 20 38	宗谷海峡 45.75°N 143.1°E	240 糎	B	三陸沖 39.0°N, 144.0°E. 震域廣く有感覺部は南方は横須賀, 水戸に及び北は根室に及びたり. (S-P)東京 1m54.5s, 筑波 1m40s, 水戸 1m09s, 銚子 1m50s, 石巻 1m 24s, 函館 53.0s.	Graz iS-eP=4m15s	筑波; 107s(I), 深發型。
番 外	II 1 16 39				種子島南東沖 29.8°N, 131.2°E. 有感覺部は北は宮津, 京都, 南方は 那覇に於て弱震。(S-P)臺東 2m 42.5s, 臺中 2m22.2s, 那覇 43s, 鹿 兒島 26.0s, 宮崎 26.7s. 福岡 53.6s, 潮岬 1m35.0s, 大阪 1m50.0s, 長野 2m07.4s, 水澤 2m55s.	Graz S 7h59m34.4s. Zür. eP 49m30.5s.	
22	1917 II 22 0 47	日本海南部 36.1°N 135.3°E?	350 糎?	C	八丈島西方沖 32.5°N, 138.0°E 東京, 横濱, 金山, 水戸, 宇都宮に 有感。(S-P)潮岬 41s, 大阪 31s, 京都 35s, 神戸 38s, 東京 50s, 銚子 55s, 水戸 54s, 水澤 60s, 石巻 91s, 鹿兒島 84s.		初期微動繼續時間不揃なり 筑波 54s 深發型。
23	VII 31 12 25	ウラダラスト ツク附近 45.0°N 130.0°E	500 糎以上	A	三陸東方遼の沖 38.0°N, 148.0°E. その震域(有感)北は北海道南東部 より南は伊豆。(S-P)銚子 110s, 東 京 115s, 津 100s, 大阪 96s, 水澤 102s, 大泊 108s, 仁川 80s.	Ups. eS-iP=7m54s Graz eS-P=8m49s Zik. S-P=2m08s Pul. " 7m27s	筑波 116s 稍深發型?
24	1918 I 31 6 20	日本海方面 シベリヤ地方 44.5°N 135.0°E	255 糎	A	震原不明. 銚子, 大阪, 長崎の發震時によれば 30N, 141E となる. 然るに秋田, 山 形等の發震時は銚子より速い. 震央 は銚子より北方にあらざるべからず (S-P)大泊 54s, 山形 1m27s, 東京 1m33s, 大阪 2m02s, 神戸 1m52s, 長崎 2m11s.	(以後は I.S.S より) 47.5°N, 129.0°E (S-P) Zik. 2m32s, Hon. 7m48s. (i-P) Uc. 10m34s Deb. 10m36s.	Ucl. の値は震源の深さ 255 糎を與へ Deb. は 258 糎を 與へる。 筑波; 103s.
25	IV 10 11 6	日本海 43.5°N 130.3°E	350 糎	B	日本海? 41.0°N, 132.0°E? (I)函館, 石巻, 水戸, 外奥羽の一 部關東地方の一帯に有感。(S-P)大 阪 1m43s, 水澤 1m41s, 仁川 1m18s.	44.0°N, 130.0°E.H; 0.070 (i-P) Dyce 2m06s. Uc. 1m58s, 2m59s. DeB. 9m12s.	Dyce の i-P と Ucl. の 第 1 i-P とによつて震源 の深さ 350 糎と 340 糎と が與へられる。 筑波; 108s.

番號	年 月 日	時 分	震央位置	震源の深さ	地震度	内 國 報 告	外 國 報 告 (I. S. S.)	記 事
26	XII 31	14 31			D	遠州灘遙の沖. 33.5°N, 138.0°E. 關東地方の一部. 四國の局部に微震. (S-P) 彦根 33s, 津 32s, 筑波山 12s (I) 大阪 38s, 東京(I), 水戸(I), 石巻 1m01s, 鹿兒島 1m00s.		要覽の S-P の値は過小. 震域状態と筑波観測とにより深淺とみむ. 筑波; 48.5s 深淺.
番外	1919 I 4	18 23			D	日高襟震沖 41.1°N, 143.2°E. 北海道中部及陸前の一部に感じ感面積 13820 方里.		筑波; 69s
27	III 26	22 37		350 秊?	D	八丈島南東沖. (S-P) 水澤 1m35s	30.7°N, 141.8°E. for instance, the epicentre 44.0°N, 131.0°E, as used with deep-focus on 1918 Apr. 10d. Would Suit equally well.	; 71s (10) 石川氏報告 31.5°N, 139.1°E. 例により北關東の一部(東京にも)に有感.
28	VI 1	15 53	石垣島北方沖 25.0°N 124.0°E	240 秊	B	石垣島北方沖 25.7°N, 123.8°E. 琉球諸島(弱)臺灣全島, 本州南部及函館亦之を觀測す。	25.7°N, 124.8°E. 0.040 (S-P) Zik. 1m1s, 東京 2m59s, 水澤 2m26s, 大泊 (3m04s) Vien. 11m18s, DeB. 10m13s (i-P) Ox. 12m16s.	
29	1920 II 23	2 32	オーツク海 47.0°N 146.5°E	360 秊	B	北海道東方沖: 42.5°N, 148.2°E. 北海道の南半, 本邦の東半に互りて有感. (S-P) 函館 1m20s (II), 水澤 1m38s (III), 石巻 2m00s (I), 沼津 2m23s (I), 水戸 1m57s (O) 潮岬 2m49s, 名古屋 2m22s, 大阪 2m36s, 秋田 1m42s, 東京 2m15s, 銚子 2m13s.	46.7°N, 145.8°E. 0.050 (S-P) Zik. 3m54s, Vien. 9m16s. DeB. 9m06s (i-P) Ucl. 11m58s, Ox. 3m04s.	筑波山; 今村式 126s 大森式 120s.
番外	IV 12	8 5	カムチャツカ 南方沖 48°N 159°E		B	得撫島南東. 45.5°N, 153.0°E. 陸前金山附近まで有感. (S-P) 釧路 1m27s (I), 函館 3m46s (I), 金山 2m23s (I), 大泊 1m21s, 神戸 3m22s, 筑波山 3m08s, 東京 2m45s, 大阪 3m28s, 水澤 2m12s, 仁川 3m55s, 銚子 2m48s.	48.3°N, 152.0°E. (S-P) Zik. 3m48s, Bat. 8m11s, DeB. 9m41s, Uc. 9m57s, Zür. 10m04s.	筑波山; 2m31s.

番 号	年 月 日	時 分	震 央 位 置	震源の深さ	地 震 度	内 國 報 告	外 國 報 告 (I. S. S.)	記 事
30	IV 15	21 14	御前崎南方沖 34.1°N 138.3°E	460 軒	C	遠州灘遙の沖 33.5°N, 137.5°E. 關東地方は微感. (S-P) 筑波山 45s (I), 東京 43s(I), 水戸 48s(I), 神戸 48s, 彦根 43s, 銚子 47s, 宮崎 1m08s.	33.0°N, 139.0°E	
31	V 5	18 40	ウラゲラスト ツク附近 43.4°E 132.0°N	500 軒 ?	C	浦鹽南東沖 41.4°N, 133.4°E. 函館, 浦川, 鹽屋崎, 横須賀に有感. (S-P) 水澤 1m39s.	44.0°N, 131.0°E. 0.070 (S-P) Zik. 2m28s, Bat. 6m53s, Lap. 6m 45s.	筑波; 92s.
32	1921 III 4	21 52	八丈島 南西遙沖 29.8°N 139.0°E	450 軒	C	八丈島沖. 異常震域にして千葉, 茨城縣下に有 感. (S-P) 水澤 1m48s, 東京 34s; 神戸 1m20s, 大阪 1m10s.	29.0°N, 139.0°E 0.060 (S-P) Man. 3m38s, Bat. 6m08s.	筑波 78.8s 深發型. 石川氏は 31.0°N, 139.0°E と報告せり。
33	III 15	13 32	伊豆七島西沖 33.6°N 138.2°E	350 軒	C	伊豆七島附近. 33.7°N, 139.5°E. 北關東一帯に有感. (S-P) 水澤 1m 11s.	33.2°N, 138.0°E	筑波; 50s, 深發型。
34	VII 4	23 20	父島西方遙沖 25.5°N 136.5°E	200 軒	B	ウラゲラストツク南東沖. 41.2°N, 133.4°E. 水戸 福島, 函館に有感. (S-P) 水澤 2m38s, 大泊 3m44s.	29.0°N, 130.0°E (i-P) Bat. 1m48(S-P) Bud. 10m28s, (Ups. の報告) eP 30m23s, iS 40m23s, SR 46m0s,	水澤, 大泊, Bud. Ups. 以外の値は過小なり. 筑波 P 51.5s, ScS 13m, 28.5s, S-P 111s.
35	IX 8	7 29	八丈島東沖 33.4°N 141.9°E	360 軒 ?	D	八丈島附近. 筑波, 宇都宮, 白河, 勝浦に微感. (S-P) 水澤 70s, 東京 26s.	33.8°N, 140.5°E.	筑波; 46.5s 石川氏; 30.5°N, 139.0°E.
36	IX 27	6 16	八丈島南方沖 31.0°N 140.0°E	320 軒	D	八丈島附近. 關東地方の一部に有感 (S-P) 大阪 1m12s, 神戸 1m12s, 東京 1m08s, 水澤 1m38s.	29.0°N, 137.0°E. (S-P) Zik. 2m42s	筑波; 70s 深發型. 石川氏; 30.6°N, 139.0°E.
37	1922 VII 14	20 10	滿洲方面		D	陸奥沖. 40.7°N, 141.9°E.	(Ups. の報告) P 11h 50m (46s) iS 58m29s, F 12.7h.	筑波; 今村式 95s. 稍深發型. 大森式 93.2s 深發型。
38	X 25	6			D	千島列島附近. 北海道千島一帯に有感.	(Ups. の報告) iP 21h 31m51s, iN 42m25s.	筑波 150s 明瞭なる深發型。
39	1923 II 12	21 28	八丈島 西北西沖 33.4°N 138.5°E	360 軒 ?	C	八丈島西北西沖. 33.4°N, 138.5°E. 關東地方にのみ有感. (S-P) 名古屋 42, 水澤 66s.	36.1°N, 137.3°E	筑波; S-P 48.6s P 43.1s, ScS 13m25s, 今村式 ScS 13m37s.

番 号	年 月 日	時 分	震 央 位 置	震源の深さ	地震 度	内 國 報 告	外 國 報 告 (I.S.S.)	記 事
40	III 21	17 28	得撫島北西沖	200 軒 ?	C	千島樺提島附近. (S-P) 水澤 1m56s, 大阪 2m44s, 神戸 3m15s.	46.0°N, 149.0°E. (S-P) Ekst. 7m28s.	
41	VI 29	19 47	父島西沖 27.3°N 140.9°E	400軒以上?	C	父島北西遙沖. (S-P) 大阪 1m38s, 神戸 1m36s, 水澤 2m07s. 長崎 1m57s.	30.6°N, 144.0°E 27.3°N, 138.5°E, 0.060 (S-P) Pul. 9m04s.	
42	VII 21	1 50	八丈島 遙西方 ?	300 軒 ?	C	八丈島西南西沖. 32.3°N, 137.5°E 關東の一部に有感. (S-P) 神戸 14s, 水澤 16s.	38.5°N, 135.0°E. (S-P) Ekst. 7m20s Pul. 8m43s.	歐洲の観測値が左の位置に 適合せず. 筑波 51.7s.
43	¹⁹²⁴ II 22	7 43	能登半島沖 38.25°N 137.0°E	200 軒 ?	D			K. Wadati (G. M.) にあ り。
44	IV 3	11 30	八丈島南西沖 32.0°N 139.0°E	320 軒	C	八丈島西方沖. 32.6°N, 138.8°E.	32.0°N, 139.0°E. 0.050	この深發は K. Wadati 石 川氏何れにも記されてあ る。
45	IV 13	4 8	遠州灘南方沖 33.6°N, 137.3°E	300 軒 ?	D	遠州灘南方. 33.7°N, 137.6°E.	34.0°N, 139.5°E.	筑波; 深發型 (小) ?
46	IV 26	03 07	父島南方沖 25.5°N, 143.0°E	240 軒 ?	C	八丈島南東遙沖. 30.4°N, 144.3°E.	27.5°N, 142.0°E.	左の値は大いに疑問を有 す。淺發 ?
47	V 28	18 53	オーック海 47.8°N 147.6°E	400 軒	A	北海道附近. 初動其の他の調査に依れば北海道西 海に震央を有する如く、有感區域よ りみるときは同南方海上にある如く 見ゆ。	48.0°N, 148.0°E. 0.060 (i-P) Bat. 1m43s.	
48	VI 3	11 42	伊豆半島 南端附近 34.6°N 138.9°E	210 軒	D	伊豆半島南方沖. 八丈島附近に發現せる稍顯地震と同 一性を有する如く、北は福島より南 は布良、沼津に亘る一帯に感ぜし のみ。	34.0°N, 139.5°E.	
49	XII 14	5 24	新潟縣 親不知附近 37.0°N 137.7°E	200 軒 ?	B	本洲中部. 震度(III)金山. (II)横須賀. (I)甲 府, 横濱, 東京, 筑波山, 銚子, 盛 岡, 釧路, 水戸.		K. Wadati にもあり。

番 号	年 月 日	時 分	震 央 位 置	震 源 の 深 さ	地 震 度	内 国 報 告	外 国 報 告 (I. S. S.)	記 事
50	1925 III 16	17. 54		350 糎 ?	D	遠州灘遙なる沖 33.5°N, 137.3°E.	31.5°N, 141.5°E.	遠州灘遙沖か日本海方面か、不明。
51	III 27	13 18	八丈島南西沖 29.7°N? 138.7°E?	400 糎 ?	D	宇都宮にて微震を感じたるのみ。	39.8°N, 130.3°E.	中央氣象臺記象紙は、深発型。
52	IV 20	0 50	八丈島西方沖 33.0°N 138.0°E	350 糎	B	富士川流域。震源の深さ極めて大なるべし。震度(IV)金山。(III)横濱、宇都宮等。(I)八丈島、筑波山、福井、飯田、大阪、徳島、石巻、釧路等。	33.0°N, 137.5°E. 0.045 (i-P) Ekat. 1m11s Baku 1m15s	K. W., 石川氏 双方に記載あり。
53	V 16	3 27	八丈島西南沖 30.5°N 138.5°E	400 糎	C	八丈島南西海底。31.6°N, 138.7°E. 震度(I)東京、福井、金山。	30.5°N, 138.5°E. 0.050	石川氏に記載あり。
54	V 27	11 30	能登西方遙沖 37.7°N 134.2°E	370 糎	A	丹後遙なる北方沖。37.0°N, 135.1°E 震源の深さ極めて大なるべし。 震度(II)松山、福井。(I)甲府、京都、足尾、沼津、石巻、横濱、帯廣、境等。	36.5°N, 133.0°E. 0.050 (i-P) Baku. 1m29s Ekat. 1m16s	K. W., 石川氏双方にあり。
55	X 20	18 42	八丈島南方沖 29.0°N 140.0°E	400 糎	C	八丈島南方。29.5°N, 140.0°E. 震度(I)水戸、宇都宮、父島、小名浜。	27.3°N, 138.5°E. 0.050 (i-P) Ekat. 2m18s	
56	1926 I 15	23 53	北海道宗谷沖 45.2°N 142.6°E	360 糎	C	根室沖合 33.8°N, 133.8°E 震度(II)帯廣、根室。(I)旭川、釧路、札幌、宮古、盛岡等。	45.0°N, 143.0°E. 0.060 (i-P) Ekat. 1m11s	
57	II 11	14 6	父島北西遙沖 29.0°N 139.0°E	200 糎 ?	D	小笠原北方。30.4°N, 142.4°E. 震度(I)父島	46.0°N, 149.0°E.	震源の深さ200糎未満やも知れず。
58	IV 2	1 04	志摩半島南々東沖 34.2°N 137.0°E	350 糎	A	遠州灘遙なる沖 32.7°N, 138.0°E 震度(III)宇都宮。(II)關東及奥羽の一部。(I)近畿、中部關東及奥羽北海道の一部。	33.0°N, 137.5°E. 0.045	K. W. にあり。
59	VII 27	3 55	彦根附近 35.4°N 136.4°E	350 糎	B	熊野灘沖。32.2°N, 136.9°E. 震度(II)高知、彦根、大阪、京都及津の管内。(I)京都、彦根の管内。	36.0°N, 134.0°E. 0.050 (i-P) Stras. 1m33s	K. W. にあるまゝを用ふ。 (13) 宮本氏 (G. M.) も上の値に同じ。

番 號	年 月 日	時 分	震 央 位 置	震 源 の 深 さ	地 震 度	内 國 報 告	外 國 報 告 (I. S. S.)	記 事
60	1927 I 15	23 31	隠岐東方沖 36.2°N 134.5°E	420 糎	C	經ヶ崎遙沖. 37.2°N, 134.3°E. 金澤, 水澤, 帯廣にて有感. 震域廣 汎にして區々として出現せり。	36.2°N, 134.5°E. (K.W. の値) 0.060	K. W. の値を左に記す. (14) 本多一竹夜兩氏も同じ。
61	IV 8	3 36	越後, 越中 附近	400 糎?	E	金華山沖合. 水戸に於いて有感なれ共. 西は飯田 より關東地方に亘りて S-P は 50s 乃至 60s.		K. W. によつて與へられ たるもの。
62	V 18	6 46	浦鹽附近 44.0°N 131.0°E	500 糎?	B	浦鹽沖	44.0°N, 131.0°E, 0.060	同 上
63	VI 18	11 27	熊野灘 33.6°N 138.5°E	300 糎?	C	八丈島南西沖. 33.3°N, 138.5°E. 300 糎内外. 筑波山, 水戸, 柿岡及千葉 縣下に異常震域.	32.0°N, 139.0°E. 0.050	K. W. によるものにして, 本多一竹花兩氏のものも同 値なり。
64	VIII 12	9 34	父島西沖 27.5°N 140.0°E	500 糎	B	父島北西約 300 糎の海底. 父島にして弱震を感じたるのみにして 微動計觀測は全國に及ぶ.	27.5°N, 142.0°E. 0.090	
65	VIII 21	7 13	八丈島西南沖 32.1°N 139.0°E	300 糎	D	御前崎南方遙沖 33.0°N, 137.6°E. 關東地方の一部に有感.		本多一竹花兩氏の値は 33.0°N, 137.6°E. H=300 糎. K.W. には 33.6°N, 138.4°E H=300 糎.
66	VIII 24	14 30	八丈島南西沖 32.0°N 139.0°E	300 糎	D	八丈島南西沖 白河, 勝浦にて微震.		K. W. による。
67	IX 13	0 29	遠州灘沖 34.2°N 137.9°E	280 糎	D	御前崎南方沖 33.6°N, 138.0°E. 震度(II)横濱, 柿岡, 小名濱. (I) 關東地方の一部, 異常震域す.	33.7°N, 139.0°E.	K. W. には 34.0°N, 138.0°E H=300 糎. 本多一竹花兩 氏も同上の値なり。
68	XII 19	4 50	日本海北部 41.5°N 132.0°E	350 糎	C	日本海北部の地震. 異常震域す.	41.5°N, 132.0°E	K. W. は 41°N, 133°E. 500 糎? 本多一竹花兩氏には 41.3°N 132.8°E. 350 糎.
69	1928 I 18	22 11	遠州灘遙南方 33.4°N 137.9°E	400 糎?	D	八丈島西微南 120 糎. 震源の深さ稍深きものゝ如し. 東京 にて微震.		K. W. によつて與へられ たるを用ふ。

番號	年月日	時分	震央位置	震源の深さ	地震度	内 國 報 告	外 國 報 告 (I. S. S.)	記 事
70	III 29	14 07	父島南西沖 31.7°N 138.2°E	410 糎	A	八丈島南西中. 32.4°N, 138.2°E. 深さ約 400 糎. 異常震域す。	31.5°N, 137.8°E. 0.060	K. W.; 32.9°N, 137.9°E. H=約 500 糎. (15) V. C. Stechschulate; 31°45'N, 138°92'E. H=410 糎. (16) K. W. and S. O. H=400 糎.
71	V 8	13 46	オーツク海 50.0°N 149.0°E	450 糎	A	國後島北々東沖. 震源稍深きもの. 釧路, 上風蓮(根室)にて微震、	50.0°N, 149.0°E. 0.070	I. S. S. の値に依る。
72	VIII 16	12 50	父島西北沖 28.3°N 140.0°E	450 糎	C	父島西南西約 250 糎. 震源の深さ稍 深かるべし. 父島にて弱震(弱)、	28.5°N, 140.5°E. 0.070	
73	VIII 23	10 18	シベリヤ 間宮海峡附近 51.0°N 140.0°E	300 糎?	B	千島北東沖.	50.0°N, 146.0°E. 0.070 (i-P) DeB. 1m08s	DeB. の i-P は H=280 糎を與へる。
74	VIII 28	2 59	八丈島南西沖 32.5°N 139.0°E	300 糎	D	八丈島南西沖. 32.5°N, 139.0°E. 300 糎. 震度(I)東京, 勝浦.	33.0°N, 139.0°E.	要覽, K. W. 及本多一竹 花兩氏の震源位置何れも同 じ. 之を採用す。
75	1929 III 17	21 15	樺太多來加灣 48.5°N 144.0°E	200 糎	C	落石岬東南東沖. 43.3°N, 148.2°E. 震度(II)廣尾. (I)釧路, 青森, 根 室.	49.0°N, 144.0°E. 0.050	K. W. には 42.3°N, 148.2°E.
76	VI 3	6 39	志摩半島沖 34.0°N, 137.5°E	320 糎	A	伊勢灣口. 34.5°N, 137.2°E. 300 糎. 四國, 中國, 本州中部の所々に微. 關東の大半, 東北の南部に弱.	34.5°N, 137.2°E. 0.050	要覽, K. W., I. S. S., 本多 一竹花兩氏. 何れも皆類似 す.(17) 鷲坂氏(驗時) 34.3°N, 136.6°E. H=300 糎.
77	IX 28	23 57	オーツク海 47.0°N? 146.0°E	250 糎?	D	落石岬沖. 深層地震にして釧路(II). 根室(I).	48.0°N, 137.0°E.	震源の深さ相當小なるやも 知れず。
78	1930 III 6	12 32	父島北西沖 28.7°N 139.5°E	250 糎?	C	父島北々西沖. 29.6°N, 141.4°E. 震度(II)父島.		本多一竹花兩氏によつて與 へられた値なり. K. W. には rather deep とあり。

番 號	年 月 日	時 分	震 央 位 置	震 源 の 深 さ	地 震 度	内 國 報 告	外 國 報 告	記 事
79	III 11	01 27	オーツク海 50.0°N 148.0°E	660 糎	C	樺太-北知床岬東方沖。		宮本氏のものを用ふ。
80	IX 29	13 53	鹿兒島灣 31.6°N 130.6°E	260 糎?	D	鹿兒島灣. 31.6°N, 130.6°E. H=300 糎程度。宮崎、鹿兒島、熊本縣下の 所々及瀬戸内海中部沿岸の所々に有 感。		本多-竹花兩氏の値を用 ふ。 K. W. の値は要覽に同じ。
81	1931 II 20	14 34	日本海北部 44.5°N 135.7°E	350 糎	A	日本海北部. 44.0°N, 138.0°E. 北海道南部沿岸, 東北地方大部分, 關東地方の大部分, 八丈島及中部, 中國, 近畿, 九州の一部に有感。		(8) K. W. and T. I. (G. M.) の 44.5°N, 135.7°E. 350 糎の値を用ふ。本多-竹 花も同値なり。 (9) Scrase は 44.3°N, 135.5°E 360 糎。
82	III 1	23 23	宗谷海峡附近 46.0°N 143.7°E	250 糎	C	北海道利尻島西沖. 45.0°N, 141.0°E. 北海道南沿岸地方及盛岡に有感。		本多-竹花兩氏の値を用 ふ。 K. W. には 45.0°N, 141.0°E rather deep とあり。
83	IV 21	9 03	日本海中部 38.5°N 134.2°E	350 糎	C	日本海中部. 38.5°N, 134.2°E. 稍深きものゝ如し。關東地方の一部 及宮古, 釧路に有感。		K. W. も本多-竹花兩氏 も震源位置は同じ。それ を用ふ。
84	VI 2	11 38	益田川流域 35°58'N 137°30'E	240 糎	C	益田川中流域. 35.7°N, 137.3°E. 中部地方中部, 近畿及中國の所々に 緩漫な有感。關東, 東北南東部に急 激な有感。その他北海道にも有感せ し所あり。		K. W. に 250 糎とあり。 左の値は本多-竹花兩氏 の値を用ふ。
85	VI 30	1 43	熊野灘 33.9°N 136.8°E	350 糎	B	熊野灘. 33.9°N 136.8°E. 350 糎弱。 異常震域とす。		K. W., 宮本氏, 本多-竹 花兩氏何れも同じ震源位 置。左にその値を用ふ。
86	1932 II 3	16 35	父島北西沖 29.0°N 140.1°E	400 糎	B	父島北西沖. 29.0°N, 140.0°E. 父島に弱震を感じたるのみ。		本多-竹花兩氏 29.0°N, 140.0°E. H=260 糎。宮本 氏. 28.7°N, 139.4°E. H= 410 糎。
87	IV 5	4 17	八丈島南方沖 30.54°N 139.14°E	410 糎	A	八丈島南方沖. 30.6°N, 139.5°E. 300 糎位。伊豆七島, 小笠原群島, 關東大半, 東北南東部に有感。	Statt. (ipP-iP)Im41s	本多-竹花兩氏の値を用 ふ。

番 號	年 月 日	時 分	震 央 位 置	震 源 の 深 さ	地 震 度	内 國 報 告	外 國 報 告	記 事		
88	IV	28	12	43	熊野灘 34.0°N 136.77°E	320 糎	C	熊野灘。34.0°N, 136.9°E. 250 糎内外。關東地方に人身感覺あり。		本多—竹花兩氏の値を用ふ。
89	V	5	13	11	大阪灣 34.6°N 135.5°E	360 糎	C	大阪灣。34.6°N, 135.3°E. 約 300 糎。關東地方に有感。	Zik. (i-iP) 1m34s.	本多—竹花兩氏の値を用ふ。 宮本氏。H=370 糎を與ふ。
90	VII	25	17	5	琵琶湖附近 35°13'N 135°52' E	360 糎	C	若狭灣。35.6°N, 135.6°E. 300 糎弱。關東、東北、北海道等の大平洋岸の各地に有感。	Statt. iP-P-iP 1m23.5s	左の値は ⁽²⁰⁾ 竹花氏(驗時)によつて與へられたるものにして本多—竹花兩氏も之と同じ。
91	VII	27	9	31	八丈島 南々西沖 31.2°N 139.0°E	300 糎	C	八丈島南々西沖。31.2°N, 139.0°E. 300 糎内外。宇都宮に有感。		本多—竹花兩氏の値を用ふ。
番 外	IX	2	21	57	父島南方遙沖			父島南方遙沖。24°N, 142°E. 父島にて弱震。	Zik. i-P=3m42s.	
92	IX	23	23	23	日本海北部 44.9°N 138.0°E	350 糎	A	日本海北部。44.7°N, 139.0°E. 相當深發。北海道の大半、東北の大部分、關東の東半、本州中部の東部の所々に有感。	Pas. iP-P-iP= 2m55s.	本多—竹花兩氏の値 44.7°N, 139.0°E. 350 糎。
93	X	2	0	9	父島北西沖 29.5°N 140.5°E	300 糎	C	父島北々西沖。29.5°N, 140.5°E. 約 300 糎。父島にて弱震(弱)。		同 上。
94	X	14	21	37	八丈島南西沖 31.6°N 138.8°E	300 糎	C	八丈島南々西沖。31.6°N, 138.8°E. H=120 糎。		本多—竹花の兩氏の値を用ふ。
95	X	26	2	3	宗谷海峡東方 46.2°N 144.6°E	370 糎	B	樺太中知床岬東方。46.3°N, 145.3°E. 相當深發。北海道南部沿岸、東北北東部沿岸に有感。		本多—竹花兩氏には 36.3°N 145.3°E. H=330 糎。 宮本氏の値を用ふ。
96	XI	13	13	48	日本海北部 43.8°N 136.7°E	300 糎	A	日本海北部。43°32'N, 137°15'E. 350 糎。北海道の大平洋岸、東北全般、關東の大部分に有感。	Pas. i-iP=2m45s Hongk. Pr-P=56s Uccle i-iP=1m14s.	本多—竹花兩氏の値。 43.57°N, 137.25°E. H=320 糎左に和達氏 ⁽²¹⁾ の値を用ふ。
97	XII	5	9	20	熊野灘 33.7°N 137.0°E	350 糎	C	熊野灘。33.7°N, 137.0°E. 350 糎。震央附近は無感。關東、東北にかけて有感。		要覽、本多—竹花兩氏は同値なり。左にその値を記す。

番 號	年 月 日	時 分	震 央 位 置	震 源 の 深 さ	地 震 度	内 國 報 告	外 國 報 告	記 事
98	1933 II 9	12 57	八丈島南西沖 31.7°N 138.8°E	250 糎	C	八丈島南西沖. 關東地方に有感.		同 上.
99	III 12	4 33	父島西方沖 26.4°N 140.2°E	320 糎	A	父島西北西沖. 28.0°N, 140.0°E. 350 糎. 父島にて弱(弱), 其の他關東, 東北の所々に有感.	Amb. i-iP=4m39s	本多—竹花兩氏の値は H=300 糎.
100	V 24	13 36	オーツク海 46.7°N 145.6°E	450 糎	C	知床岬北方沖. 46.5°N, 145.3°E. 稍深發. 震度(II)廣尾, (I)釧路, 青森.		同 上
101	V 29	8 40	八丈島 西南西沖 32.4°N 138.0°E	300 糎	D	八丈島西南西沖. 32.4°N, 138.0°E. 300 糎. 震度(I)筑波, 勝浦.		要覽, 本多—竹花兩氏は値 同じ. 左に用ふ。
102	IX 3	1 42	八丈島南方沖 30.3°N 139.4°E	380 糎	A	八丈島南方沖. 30.3N, 139.4E. 300 糎. 八丈島は微. 關東, 東北の 東南部にて強く有感.	Pas. ipP-iP=1m30s.	本多—竹花兩氏は要覽に同 じ. 宮本氏は 31.0°N, 140.0°E H=410 糎とあり.
103	IX 6	23 05	濱松南々東沖 34.4°N 137.8°E	250 糎	C	濱松南々東沖. 34.4°N, 137.8°E. 250 糎震度. 東京, 水戸に微震.		本多—竹花兩氏の値は要覽 と同じ. 左に用ふ。
104	IX 20	12 57	熊野灘 34.1°N 136.6°E	330 糎	C	熊野灘. 34.1°N, 136.6°E. 330 糎 關東地方の一部に有感.		同 上
105	XI 19	4 34	八丈島南西沖 32.6°N 139.0°E	250 糎	E	八丈島南西沖. 32.6°N, 139.0°E. 250 糎. 震度 (I) 水戸, 東京, 銚 子, 勝浦.		同 上
106	XII 5	4 34	中知床半島 東方 46.6°N 144.0°E	340 糎	A	宗谷海峡東方沖 45.2°N, 144.0°E. かなり深發. 北海道南半分, 東北北 東部, 福島及水戸附近に有感.	Pas. ipP-P=1m22s.	本多—竹花兩氏は 45.4°N, 144.0°E. 350 糎. 左の値 は宮本氏の値なり。
107	1934 IV 20	1 14	八丈島南方 30.0°N 139.5°E	380 糎	B	八丈島南方沖. 30.0°N, 139.5°E. 350 糎. 父島にて弱震外關東の所々 に有感.	Pas. i-P=1m34s.	

別 表

番號	年月日	時分	震央位置	震源の深さ	地震度	記 事
1	1924 I 27	3 15	35°19.6'N 149°6.7'E	140 糎	E	左に震研の値を記す。
2	VII 1	0 40	44.7°N 147.6E	約 160 糎	A	I.S.S.; 44.7°N, 147.6°E, H=0.020. 要覽; 41.7°N, 144.5°E.
3	1925 I 28	13 6	43.2°N 147.2°E	約 120 糎	A	I.S.S.; 43.2°N; 147.2°E. 要覽; 42.1°N, 146.1°E.
4	1926 VI 5	18 10	31.5°N 130.0°E	160 糎	B	I.S.S.; 30.1°N, 131.6°E. H=0.035 要覽; 32.5°N, 132.2°E.
5	VI 29	23 26	27.3°N 126.8°E	140 糎	A	I.S.S.; 27.3°N, 126.8°E. H=0.020 要覽; 25.0°N, 127.2°E.
6	1927 XI 11	4 48	36.6°N 137.9°E	190 糎	D	I.S.S.; 36.2°N, 137.8°E. K.W. によつて上の値は與へられた。
7	XI 18	5 22	35°18.6'N 139°19.9'E	110 糎	D	震研の値を用ふ。
8	XII 10	11 45	37.8°N 139.8°E	160 糎	D	要覽; 37.6°N 138.8°E. 約深さ 100 糎. I.S.S.; 38.0°N, 138.9°E. K.W.; 37.8°N, 139.8°E H=180 糎. 本多一竹花: 38.0°N, 139.0°E. H=130 糎.
9	XII 31	14 50	36.1°N 139.2°E	140 糎	D	要覽; 36.0N, 139.3E. I.S.S.; 36.0N, 139.0E. K.W.; 36.1N, 139.2E H=140 糎 震研; 36°10'N, 139°26.7'E H=140糎 本多一竹花; 36.1°N. 139.2°E. H=120 糎.
10	1929 I 13	9 3	49.7°N 154.8°E	120 糎	A	要覽; 58°N 154°E. I.S.S.; 49.7°N, 154.8°E. H=0.015. 宮本氏; 49.7°N, 154.8°E. H=150糎.
11	VI 4	12 39	35°14.9'N 139° 85'E	120 糎	E	震研の値なり。
12	X 6	4 1	44.2°N 146.0°E ?	150 糎?	C	I.S.S.; 45.7°N, 142.0°E. 震央は或は宗谷海峽邊か?。
13	1929 X 10	4 45	32.9°N 131.1°E	120 糎	D	要覽; 32.9°N, 131.1°E. H=100. 糎. I.S.S.; 33.5°N, 131.9°E. K.W. 及本多一竹花の値; 23.9°N, 131.1°E. H=120 糎
14	IV 18	11 20	35°32.2'N 139°30.0'E	115 糎	E	震研の値なり。
15	VIII 30	5 2	44.2°N 146.5°E	150 糎	C	K.W.; 44.2N, 146.7E. some-what deep.
16	XII 21	23 51	20.4°N 122.2°E	150 糎	A	宮本氏の値は左の如くなれど、尙詳 査を要するものの如し。
17	1931 I 6	12 23	42.4°N 142.8°E	100 糎	C	要覽; 42.4°N, 142.8°E. K.W.; 42.4°N, 142.8°E H=100 糎. 本多一竹花兩氏上の値に同じ。

番號	年月日	時分	震央位置	震源の深さ	地震度	記 事
18	I 9	10 46	39.8°N 140.6°E	130 糎	C	要覽; 39.8°N, 140.5°E 深發 K. W., 39.8°N, 140.5°E H=130 糎. (●) 岡(驗時); 39.8°N, 140.6°E H= 130 糎. 本多—竹花; 上の値に同じ
19	XI 12	22 11	34.8°N 139.4°E	100 糎	D	
20	1932 II 19	22 25	32.9°N 140.3°E	150 糎	C	要覽の値なり。 本多—竹花も同値。
21	VIII 21	18 04	36.2°N 139.4°E	120 糎	E	要覽の値なり。
22	XI 18	5 11	31.1°N 130.4°E	100 糎	C	要覽の値なり。 本多—竹花も同値。
23	XII 27	6 15	26.0°N 125.5°E	約 150 糎 ?	B	要覽; 25.2°N, 126.3°E. 尙詳査を要す。
24	1933 III 19	0 51	32.2°N 140.0°E	120 糎	B	要覽; 32.4N, 139.7E. 本多—竹花の値を用ふ。
25	IV 28	10 31	36.1°N 139.4°E	約 100 糎	D	要覽の値なり。
26	X 2	4 24	32.9°N 131.4°E	約 100 糎	D	〃
27	1934 II 1	9 16	35°20'N 139°20'E	約 100 糎	C	〃
28	II 24	15 24	21.0°N 145.0°E	150 糎?	A	要覽; 24.5N, 143.0E. 或は尙深きやも知れず。

註 (●) 驗震時報 第六卷, 第一號—田澤湖地震に就いて, 岡四四亥。

其の他は前註に同じ。

追 記

◎1927年8月13日2時33分頃の地震を震央 36.0°N, 135.3°E, 震源深さ 360糎として追加する。I.S.S. 報告に於いては 34.7N, 134.5E 深さ Normal である。内國報告に於いては (S-P) 名古屋 40.4s, 洲本 38.4s, 長野 44.6s, 熊谷 49.6s, 銚子 57.6s, 福島 61.6s, 柿岡 54.1s, 伊吹山 39.2s。震度, 柿岡 I とす。

◎1927年8月12日9時34分父島西沖の地震は本表に於ける震央及震源の深さを 27.5°N, 139.6°E。470 糎。と訂正する。

◎1933年7月13日16時58分奥尻島西北西沖の地震を震央 42.8°N, 138.7°E にして稍深發地震らしい。要覽には震央 42.4°N, 138.7°E 普通地震とす。

註

- (1), (2) 總ての材料 (こゝに掲載せざるものを含む) を綜合して著者等の推定したる結果を示す。
(3) 地震規模の大小を凡そ示めすものにして A, B, C, D, E の 5階級とす。(4) 1905年—1910年間は中央氣象臺年報第二部地震の部, 内國報告は殆んどこの年報より採用したるもの, 1911年以

後は中央氣象臺の氣象要覽より主に採用したるものにして中には内地の測候所の地震観測原簿の寫しもあり。(5) 1905年—1917年までは外國の觀測所の報告より、1918年—1929年までは International Seismological Summary より、それ以後は適宜假報告より採出したるものなり。(6) 感面積は有感覺陸地面積の略。(7)*Pub. of the Eqk. Inv. Com. No. XXII. "Observation of Local Earthquakes on Mt. Tukuba, in 1905 by F. Omori." 中に掲載されたるものに依る。(8) Pub. of the Imp. Eqk. Inv. Com. Vol. I., F. Omori. "Seismograms showing no Preliminary Tremor." (9) Gerl. Beit. z. Geophys. 41, 2. p.168 (10) 著者等が記象紙を検し得たるもの、尙場合によりては S—P なる記號を省くことあり (11) 驗震時報、第二卷、第二號—本邦顯著地震表：石川高見。(12) Geophys. Mag., Vol. 1. No. 4, Vol. No. 4. and Vol. IV. No. 4.—Shallow and Deep Earthquakes by K. Wadati. (13) Geophysical Magazine Vol. 8. No. 1 p. 77. (14) 驗震時報第八卷、第一號—深發地震の發震機構と地殻内部に於ける歪力：本多弘吉、竹花峰夫。(15) Bull. of Seis. Soc. of America. Vol. 22, No. 2, 1932—June. :—V. C. Stechschulte. (16) Geophys. Mag. Vol. VII, No. 2.—"On the Travel time of the earthquake Waves (Part III)" by K. Wadati and S. Oki. (17) 驗震時報第三卷、第三號—昭和4年6月3日の深層地震調査：鷺坂清信。(18) Geophys. Mag. Vol. VII, No. 3—4—"On deep-focus Earthquakes in the Northern Part of the Japan Sea." by K. Wadati and T. Isikawa. (19) Roy. Soc. of London. Series A, Vol. 231. Pp. 207—234 "The Characteristics of a Deep Focus Earthquake: A Study of the Disturbance of Feb. 20, 1931." by F. J. Scrase, M. A., B. Sc. (20) 驗震時報第七卷、第一號—昭和7年7月25日琵琶湖附近の深發地震に就いて：竹花峰夫。(21) 氣象集誌第二輯第十二卷第三號 ScS 波に就いて：和達清夫。

地名略語

Stras.—Strasbourg. Ekaterinburg. U.—Uccle. Amb.—Amboina. Zag.—Zagreb. Man.—Manila. Vien.—Vienna. Tashk.—Tashkent. Gött.—Göttingen. Zik.—Zika-wei. Ox.—Oxford. Pul.—Pulkovo. Ups.—Upsala. Ott.—Ottawa. Irk.—Irkutsk. Hono.—Honolulu. Bud.—Budapest. Zür.—Zürig. De B.—De Bilt. Hong.—Hong Kong.